月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.52



いよいよ発売!
スタート時にお得なDLC情報を一挙紹介!
英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution

そららじ仕様にリニューアル!
エステル&ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオの舞台裏

ファルコムニュース

ついにキャスト情報が到着!
同時に収録後のコメントも掲載開始!
東京ザナドゥ

旧校舎に現れた
新たなる"扉"
英雄伝説 閃の軌跡 ～メンタルクロスリンク～

楽しい楽しい
クラス替えテスト!?
みんな集まれ!ファルコム学園

ユーシスの過去が
今、明らかに……
英雄伝説 閃の軌跡



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

東京ザナドゥ

メインキャラクターのキャストがついに発表！

毎号新情報をお届けしている『東京ザナドゥ』。今回も新たなメインキャラクターが明らかになったほか、すでに紹介してきたコウたちメインキャラクターのキャスト情報も到着！　収録を終えたばかりのキャストたちからのコメントも掲載していくぞ！

北都 美月（ホクト・ミツキ）

18 歳（CV：山崎はるか）

日本有数の大企業《北都グループ》の令嬢にして、コウらが通う杜宮学園の生徒会長。その出自を鼻にかけない心優しい性格で、生徒からの支持も厚い。ただし、幼い頃より帝王学を修めているため、言うべきことはきちんと言うなど、交渉術にも長けている。《北都グループ》は世界を表裏で主導してきた巨大企業連合《ゾディアック》の一角を担っているため、《異界》を含めた様々な裏事情にも通じている。

「《ゾディアック》の一員としてではなく……
“北都美月”個人として
協力させて頂けませんか?」









●製品情報
- ●タイトル　：東京ザナドゥ
- ●発売日　：2015年9月30日（水）
- ●ジャンル　：都市型神話アクションRPG
- ●対応機種　：PlayStation®Vita
- ●プレイ人数：1人
- ●販売価格　：通常版……………………　6,998円（税抜6,480円）
  初回生産限定ＢＯＸ……8,208円（税抜7,600円）
- ●CERO　：審査予定

『東京ザナドゥ』公式ホームページ
http://www.falcom.com/tokyo_xanadu/

ミツキ基本アクション紹介

●通常攻撃



杖のような形状のソウルデヴァイスから複数の魔法弾を放ち敵を攻撃する。魔法弾は放射状に拡散するので、比較的広範囲の敵を一度に攻撃可能。また、近距離で攻撃すると拡散する前の状態で敵にヒットするため、強力なダメージを与えることができる。

●射撃スキル　《イノセントエッジ》



光り輝く剣を投射するスキル。通常時は直線攻撃だが、ロックオンをすると敵に向かってとんでいくようになる。

●剛撃スキル　《ハーミットシェル》



一定時間、敵の攻撃をすべて完全防御する障壁を展開する。また障壁にはダメージ判定もついているので、攻撃に使うこともできる。

●飛翔スキル　《ワンダースタッフ》



魔女のようにソウルデヴァイスの上に乗り高速移動をする。

● X ストライク《カオス・エルドラド》

ソウルデヴァイスから白と黒の魔法弾を発射して攻撃、その後融合した魔法球でも攻撃するミツキの最大攻撃。



今月のキーワード！

ゾディアック（Zodiac）

70年前の技術革命以降、世界の経済・産業を主導してきた１２の巨大企業連合。「異界の利用」というスタンスで国家の枠組みを超えた影響力を持つが、 表の世界に過度な干渉はせず、国家間の争いについても基本的に不干渉を貫く。各国の参加企業は互いに協力しつつも競争しており、新エネルギー、導力ネットワーク、サイフォン、異界由来の新素材などの分野で鎬を削っている。ネメシスとは新技術やソウルデヴァイスの分野で協力することも多いが、異界の扱いを巡って対立し、衝突や暗闘にまで発展することも少なくない。

導力ネットワーク（Orbal Network）

20年前、ゾディアック主導により提唱され、米国と日本でテストされる形で瞬く間に広まっていった情報処理・ネットワークシステム。現在では全世界に普及しており、社会インフラとして不可欠な存在となった。その基本アーキテクチャには不可思議な部分もあり、ゾディアック以外にもネメシスなど他の組織が何らかの形で絡んでいるらしい。



北都 征十郎（ホクト・セイジュウロウ）

70 歳（CV：掛川裕彦）

《北都グループ》の会長にして、ミツキの祖父。かなりの偉丈夫で、厳格な性格。後継者となるはずだったミツキの父が他界した結果生じた一族の後継者争いには辟易しているが、ミツキのことは目にかけており、彼女に杜宮市の事業の一部を任せている。

「これ以上、無様な姿を見せるものではない。」



「ミツキお嬢様の秘書を務めております。以後、お見知りおきのほどを。」

雪村 京香（ユキムラ・キョウカ）

27 歳（CV：たかはし智秋）

ミツキをサポートする女性秘書。クールな性格だが、ミツキのことは大切に思っており、ミツキもまた、彼女を姉のように慕っている。《異界》に関する知識も持っており、会長やミツキを護衛するための戦闘訓練も積んでいる。



高幡 志緒（タカハタ・シオ）

18 歳（CV：鳥海浩輔）

コウたちが通う杜宮学園一の不良。恵まれた体躯の持ち主で、その腕っ節は恐ろしい強さを誇る。ただ、寡黙で思慮深い一面も持ち合わせており、筋の通らないケンカはしない。かつては有名な不良チーム《BLAZE》のヘッドを張っていたが、とある事件がきっかけでその座を退いた。その後、チームも解散したという噂が流れていたが、最近になり、《BLAZE》の名を騙った何者かが事件を起こすようになり……。

「——その“力”、
どうやって手に入れた？」



シオ基本アクション紹介

●通常攻撃



大剣状のソウルデヴァイスを豪快に振るい攻撃を行う。攻撃スピードは仲間の中でももっとも遅いが、その分威力は大きい。

●射撃スキル　《フレアスラッシュ》



焔を纏わせた巨大な衝撃波を前方へと放つ。攻撃範囲も優秀で、一度で複数の敵にダメージを与えることができる。

●剛撃スキル　《イグニスブレイク》



ソウルデヴァイスを深く構え、一気に斬り上げる。まさに剛撃という文字に相応しい豪快なスキル。また焔属性なので、弱点属性となる敵にはさらに強力なものに。

●飛翔スキル　《ブラストエッジ》



ソウルデヴァイスを振り切った勢いそのままに前方へと突っ込んでいく飛翔スキル。シオは移動スピードが遅めなので、間合い調整や緊急回避といった用途で有用となる。

● X ストライク《クリムゾンレイド》

地上で連続攻撃を加えた後に跳躍、その勢いそのままに、地上にいる敵へと体ごと突進して大ダメージを与える必殺技。



コウの幼馴染やクラスメイトも続々到着！





「コウちゃんってば……
また夜遅くまで
アルバイトしてたんでしょう？」



倉敷 栞（クラシキ・シオリ）

17 歳（CV：茅野愛衣）

コウの家の隣に住んでいる幼馴染。コウのことを「コウちゃん」と呼び、両親の海外出張で一人暮らしとなったコウに何かと世話を焼こうとする。そんな平和な日常を過ごしていたある日、異界化事件に巻き込まれてしまう。

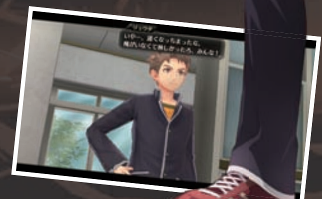


「俺も今年こそは
薔薇色の高校生活を
謳歌してやるんだからな！」

伊吹 遼太（イブキ・リョウタ）

17 歳（CV：阿部敦）

コウやシオリとは小学校以来の幼馴染。今時の高校生らしく、モテ男を目指したり、アイドルを追っかけたりと、忙しない毎日を過ごしては空回りしている。気のいい性格で、誰とでも仲良くなれるタイプだが、薔薇色の高校生活はまだまだ遠いようだ。





「うーん、
確かにコウは
恵まれてるよねぇ。」

小日向 純（コヒナタ・ジュン）

16 歳（CV：伊藤かな恵）

コウやリョウタと１年生の時に同じクラスとなり、そのまま一緒につるむようになった美少年。女子からは王子様（愛玩動物？）のように可愛がられている。大人しい性格だが、親しい間柄の人には割りと遠慮はしないタイプ。アニメやサブカルが好きなぬるオタでもある。





今までイラストに載っていなかった新たな仲間!?
羽のようなソウルデヴァイスを操る謎の少女が登場！

その気になる正体は次号を待て！



東京ザナドゥ キャストコメント第一弾！

『東京ザナドゥ』キャスト情報

時坂 洸（トキサカ・コウ）：	浅沼晋太郎
柊 明日香（ヒイラギ・アスカ）：	嶋村侑
郁島 空（イクシマ・ソラ）：	加隈亜衣
四宮 祐騎（シノミヤ・ユウキ）：	山下大輝
北都 美月（ホクト・ミツキ）：	山崎はるか
高幡 志緒（タカハタ・シオ）：	鳥海浩輔
倉敷 栞（クラシキ・シオリ）：	茅野愛衣
伊吹 遼太（イブキ・リョウタ）：	阿部敦
小日向 純（コヒナタ・ジュン）：	伊藤かな恵
北都 征十郎（ホクト・セイジュウロウ）：	掛川裕彦
雪村 京香（ユキムラ・キョウカ）：	たかはし智秋

毎号新情報に胸が高鳴る『東京ザナドゥ』だが、今月はついにコウたちメインキャラクターをはじめとする計11人のキャストが発表された。今回はキャストコメント紹介の第一弾として、コウ、アスカ、ソラの3キャラ分のキャストコメントをご紹介。次号からは大幅にボリュームアップをしていくのでお楽しみに！



アスカ役
嶋村侑さん

■演じられた感想をお聞かせください。

今日は収録初日でしたので、アスカと同様に私も他のキャラクターたちと出会っていくシーンをたくさん演じさせていただきましたので、とても楽しかったです。

■ご自身が演じられたキャラクターの印象について教えてください。

最初はヒロインという肩書きに気後れしていたのですが、演じてみたら思っていたよりもクールでしっかり者の女の子でしたので、気負うことなく進めていくことができました。アスカは本当に真面目で、収録前はもうちょっとキャピキャピした面もあるのかなと思っていたのですが、今日の収録ではそういう面がほとんどありませんでした。コウ君のことも「時坂君」呼びですから。この後打ち解けていくと、下の名前で呼ぶことも出てくるのかな？（笑）

■ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

現代を舞台にした完全新作ではあるのですが、どうやら日本ファルコムさんの歴史ある作品たちとクロスしているような、ファンならニヤリとできる要素もあるということです。この作品で初めてファルコムさんの作品に触れる方はもちろん、今までいろいろな作品をプレイしてきていただいた方も楽んでいただけるよう私自身も頑張りますので、よろしくお願いします。



ソラ役
加隈亜衣さん

■演じられた感想をお聞かせください。

最初に台本をいただいて受けたソラちゃんの印象よりも、かなりまっすぐで純粋な子でした。演じていくうちに、「こういう子であり続けて欲しいな」と私自身が思うぐらいに、武術においても日常においても真摯に向かい合う子です。

■ご自身が演じられたキャラクターの印象について教えてください。

ソラちゃんは郁島流の武術をずっと習っていて、天才的な素質を持っているのですが、決して努力を惜しまず続けている子です。その努力があったからこそ、困難にもへこたれず、曲がらずにいられる強さを持っています。

■ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

この作品は今まで体験したことない気持ちや、すごく共感できるという気持ちといった、いろいろな気持ちにさせてくれるシーンがたくさん盛り込まれていると、ソラちゃんを通して感じました。すごく重厚な作品になっていると思いますので、ぜひ楽しんでもらえるとうれしいです。よろしくお願いします。



コウ役
浅沼晋太郎さん

■演じられた感想をお聞かせください。

僕は今回、役柄上すべてのシナリオを知ってしまったんですよね、当たり前ですけど（笑）。こういうストーリー重視の作品は、物語やミッション、キャラクターのネタバレなどを先に知ってしまうと、どうしても面白さが減ってしまいがちになりますが、知ってしまった今でもなお、楽しみという思いがあり続けるというのは、すごい作品だと思います。早くゲームをプレイしてみたいです。

■ご自身が演じられたキャラクターの印象について教えてください。

ビジュアルや序盤の台詞から、世の中を斜に見ているような雰囲気を持っているのかなと思っていたのですが、実際に演じさせていただくと、まっすぐでいい子だなと感じました。目上の人には敬意を払い、「俺は俺なんで」なんて言わずに友達を大切にする、そして年相応に照れたりもする。そういう子です。ただ、そのまっすぐないい子が表にあまり出てしまうとコウというキャラクターがブレてしまうと思ったので、その部分がちょっと垣間見える程度に抑えるよう、気をつけて演じさせていただきました。

■ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

僕はアニメやゲーム、ナレーションもそうですが、参加させていただいた作品を、自分の反省材料として見ることが多くて、作品を見る時も楽しむというよりも「こう演じれば良かったな」と考えてしまいがちなんですね。この作品ももちろん、そういった反省点を確認していくことになるだろうとは思うのですが、それ以上に楽しみが大きい、というのが正直な気持ちです。早く音楽を聴いてみたい、アクションシーンを観てみたいという、みなさんと同じような気持ちにさせてくれる、とてもおもしろい作品だと思います。ぜひすみずみまでプレイしていただき、楽しんでもらえればうれしいです。よろしくお願いします。



●製品情報

■タイトル　：英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution
■発売日　：2015年6月11日発売予定
■ジャンル　：ストーリー RPG
■対応機種　：PlayStation®Vita
■プレイ人数　：1人
■小売価格(税別)：通常版(PS Vita)…5,800円
：ダウンロード版…4,800円
：限定版…8,800円
：キャラアニ限定BOX…15,556円
■発売　：角川ゲームス
■企画・監修　：キャラアニ、日本ファルコム
■CEROレーティング：B
■コピーライト：

THE LEGEND OF HEROES
空の軌跡FC Evolution
ソラノキセキFC エヴォリューション

『英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution』いよいよ発売！無料DLCで序盤を快適にプレイしよう！

ついに発売が間近に迫った『空 FC Evo』。体験版をプレイしながらその瞬間をまだかまだかと待っていた人も多いはず。今回は何かと苦労しがちな序盤が快適になる無料ダウンロードコンテンツの数々をご紹介。自分のプレイスタイルに合わせて使ってみよう！



◉セピス無料セット◉
七属性セピス×100のセット。

◉ゼラムカプセル無料セット◉
ゼラムカプセル×2のセット。

◉ゼラムパウダー無料セット◉
ゼラムパウダー×2のセット。

◉上級回復薬無料セット◉
上級回復薬4種（ティア・オルの薬、キュリアの薬、アセラスの薬、EPチャージ改）×2のセット。

◉魔獣食材無料セットA◉
魔獣食材7種（魔獣の角、魔獣の羽、魔獣の尻尾、魔獣の骨、魔獣の目玉、魔獣の牙、魔獣の甲羅）×10個のセット。

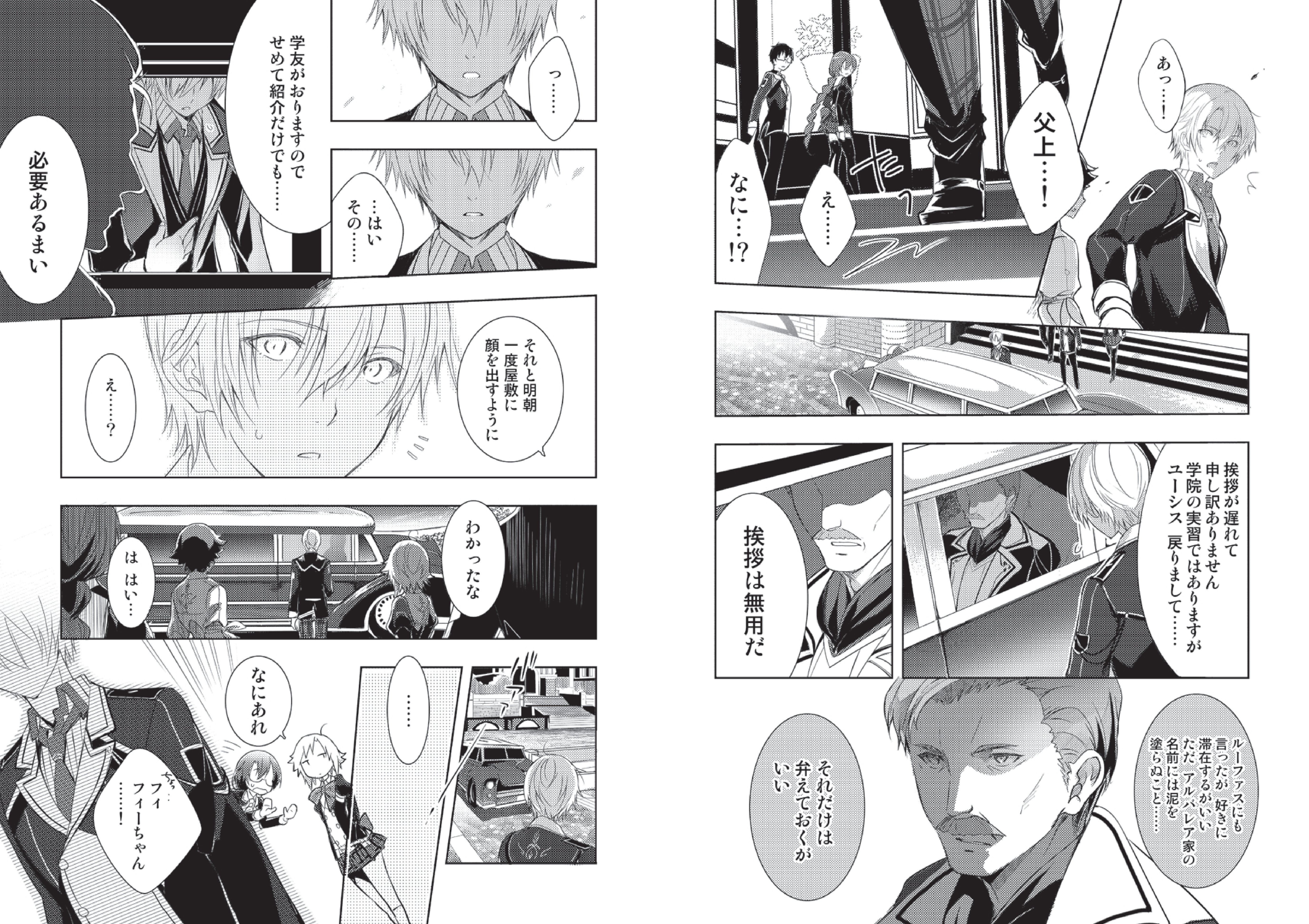
◉魔獣食材無料セットB◉
魔獣食材7種（魔獣の獣肉、魔獣の魚肉、魔獣の鳥肉、魔獣のゼラチン、魔獣の鳥卵、魔獣の魚卵、魔獣の種）×10個のセット。



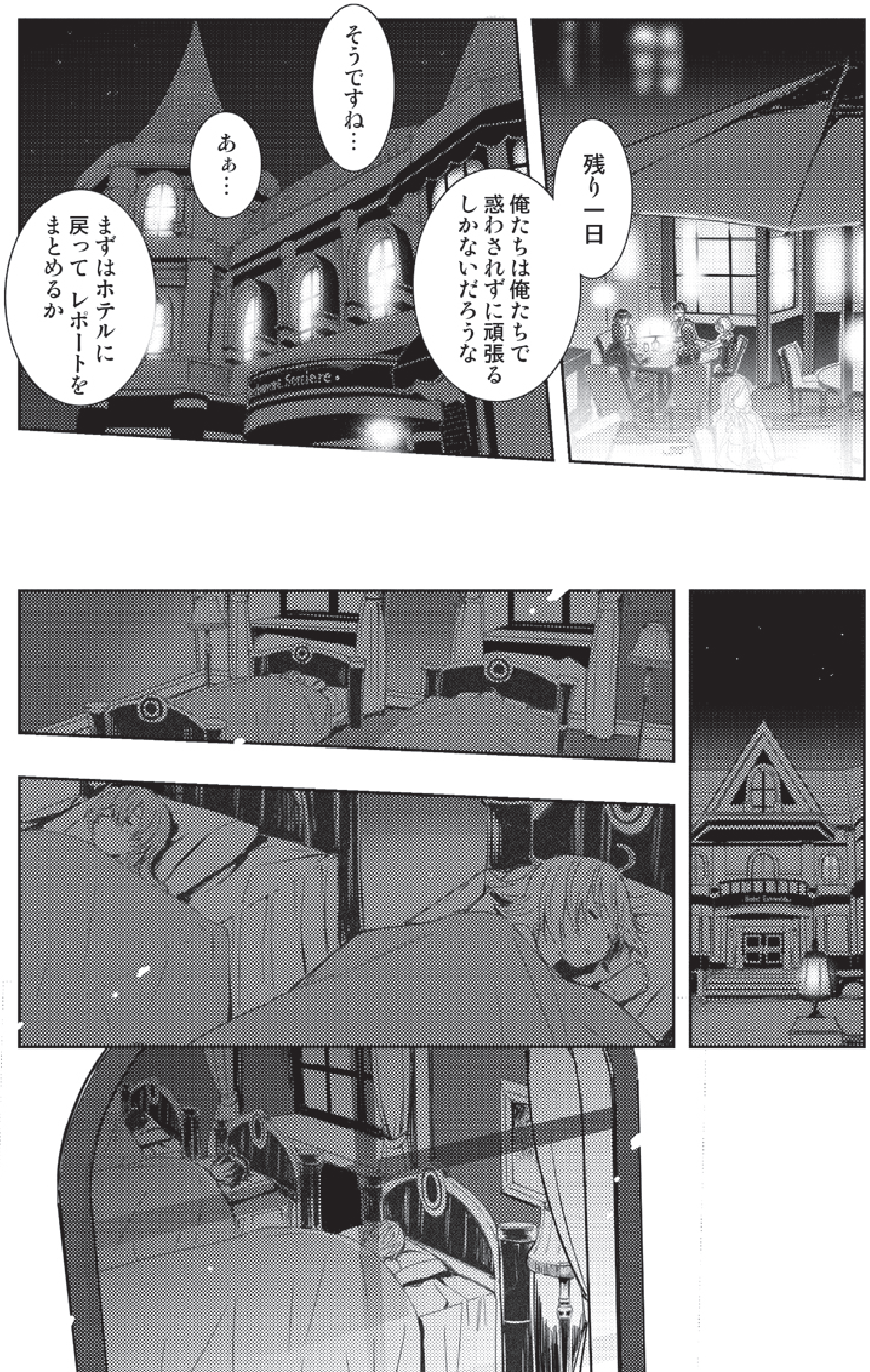
無料配信予定!!　乞うご期待！

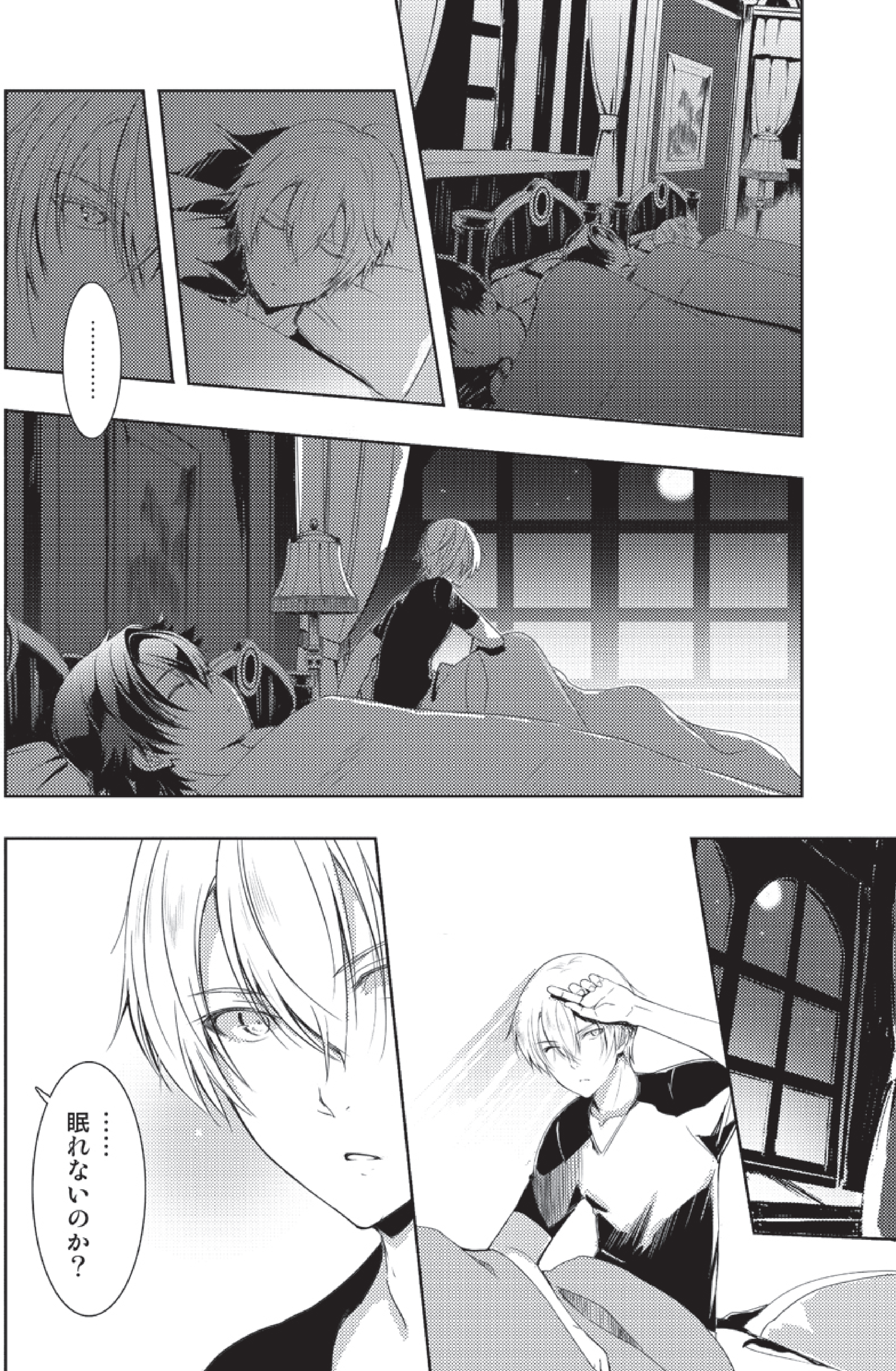
最新情報は公式ホームページをチェック!　http://www.sora-evo-fc.com/


THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
センノキセキ
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
脚本：恵村まお
漫画：さがら梨々
第8話
先ほどの……なんだったんでしょうね 砦から逃げていったように見えましたが……
飛行船でもないのに空を飛べる物体なんて聞いたことがないぞ？
……こちらには来ていないようだな
ん 来てたら騒ぎになってる
一応 サラ教官への報告には記した方がよさそうですね
キィッ
そうだな……よし 一度ホテルに戻ろう


あっ……!
父上……!
え……
なに……!?
挨拶が遅れて申し訳ありません
学院の実習ではありますが
ユーシス 戻りまして……
挨拶は無用だ
ルーファスにも言ったが 好きに滞在するがいい
ただ アルバレア家の名前には泥を塗らぬこと……
それだけは弁えておくがいい
っ……
学友がおりますので
せめて紹介だけでも……
…はい
その……
必要あるまい
それと明朝
一度屋敷に
顔を出すように
え……?
わかったな
は はい…
……
なにあれ
フィ
フィーちゃん
……!


今のが《アルバレア》公…
四大名門の一角にして絶大な権勢を誇る大貴族か
…あぁ
そして信じられぬことに俺の父でもあるらしい
ユーシス…
……
詮無いことを言った
腹が減ったな……いったん部屋に戻ったら 食事にでも繰り出すか
ユーシスさん…
お腹ペコペコかも
……ふぅ いい風だな
ええ お料理もとても美味しかったです♪
さすがに貴族の街で繁盛しているレストランだな
ユーシスの行き付けだったか?
あぁ
昔から良くしてくれてな
ここの味で育ったようなものだ
ふふ…
今回のレポートはちょっと気が楽かもしれません
え?
先月の実習とてもこんな普通の雰囲気じゃなかった
今回はかなりマシだと思う
そ そっか
——だが決して良くもないだろう
えっ…


おそらく今回のB班はベストを尽くせる状況だろう
だが俺たちA班は今日一日ベストを尽くせたか？
手配魔獣との戦いもそうだがそれ以外の依頼についても
カチャ
……
…むぅ
実習は残り一日……なんとか立て直すしかないだろう
それに……クロイツェン州での増税に領邦軍の大規模な軍備増強……
俺たち自身の問題意外に難しい状況が見えてきたのも確かだ

残り一日
そうですね…
俺たちは俺たちで惑わされずに頑張るしかないだろうな
あぁ…
まずはホテルに戻ってレポートをまとめるか


……
……眠れないのか？


リィン……
フッ…お前の方こそ
まさかベッドが硬くて眠れないと言うんじゃないだろうな
それこそまさか
寮はもちろん実家でだってこんな豪華なベッドで寝てないさ
父の流儀でね 領主は民に寄り添うべし…
いつもそんな風に言っていたよ
そうか……良いご両親に育てられたみたいだな
……ユーシスはその……
お兄さんとは仲が良さそうだったけど
お父さんとは……昔からああなのか？
…あぁ 昔からだ


平民の娘に産ませた子などさして興味がないんだろう
え……


俺と兄の母親は違う
兄の母は貴族出身の正妻でいまだに存命している
俺の母は平民の出で…八年前に亡くなっている
……つまり俺は妾腹の息子というわけだ
……そうだったのか
その……昼間見て思ったけど
お兄さんと仲が良いのは本当なんだろう…？


まぁ
悪くはないな
8年前に
引き取られて以来
ずっと良くして
もらっている
剣も作法も…
兄から教えて
もらったものだ
はは……
だと思ったよ
……?
ユーシスの剣って…
なんというか真っ直ぐな
感じがするからな
よっぽど信頼できる
人間から教わったんじゃ
なければ あんな風には
身につかない…
昼間会った時に
なんとなく この人が
教えたのかと思ってさ
！……


フン
つくづくお前は
貴族らしさが
ないようだな…
自覚
してるよ…
昼間の傷は
いいのか？
あぁ…
もう痛みも
感じない上に
傷も完全に
ふさがってる
みたいなんだ
そうか…
どうもお前は
危ういところが
あるようだな
え
入学式の日…
あの時 お前は
なんの躊躇もなく
アリサを庇うために
行動したな？
ああいう時…
普通の人間ならば
反射的に自分の身を
守るはずだ
……


なのにお前は
そうせずに
他人の身を守る
ことを優先した
そう…
今日 俺たちを
とっさに
庇った時と
同じように
本来ならば
誉められて
しかるべき
行動かも
しれんが……
俺にはどうも
それが歪に見えて
ならない
…参ったな
まさかそんな風に
見抜かれるとは
思わなかった…
お前が俺を
見透かすような
ことを言うからだ
だが──
お前のその
在り方
ある意味“傲慢”で
あるのはお前自身も
わかって
いるんだろう?


ああ……
さすがにね
『自分の身も
省みずに
何が人助けじゃ
未熟者が!』
そんな風に
老師にも
叱られたよ
そうか……
……
ふふ……
ははっ……
未熟者同士
なのは
お互い様と
いうわけか
ああ…
今日は
もう寝よう
明日は朝から
ユーシス
居ないんだよな
その分
頑張らないと…
用が済んだら
合流する
それまでせいぜい
気張るといい


…おやすみ ユーシス
ああ… 良い夢を
……………


チチ…
上着補修してくれたのか…！ありがとう委員長
いえ…布を当ててるだけの応急処置ですよ
傷もすっかりふさがったみたいだしいろいろ助かったよ
そんな… 私は特に
というか治るの早すぎな気もするけど…
まいいか
にこ
にこ


さて
今日はどんな依頼を兄はまとめたことやら
――ユーシス・アルバレア
……なんだマキアス・レーグニッツ
……
ARCUS(アークス)の戦術リンク機能…
この実習の間に何としても成功させるぞ
!


いくら君相手とはいえ他のメンバーが出来ていることを出来ないのは不本意だからな
君の実家の用が済んだら…昨日のリベンジをするのはどうだ？
………
フッ
――やれやれ我らが副委員長殿は単純だな
カッ
……？
カッ


大方 昨晩の話を盗み聞きして絆されたといったところか？
なっ…!?
き…君の家の事情やリィンの話など
僕はこれっぽっちも――!
あ

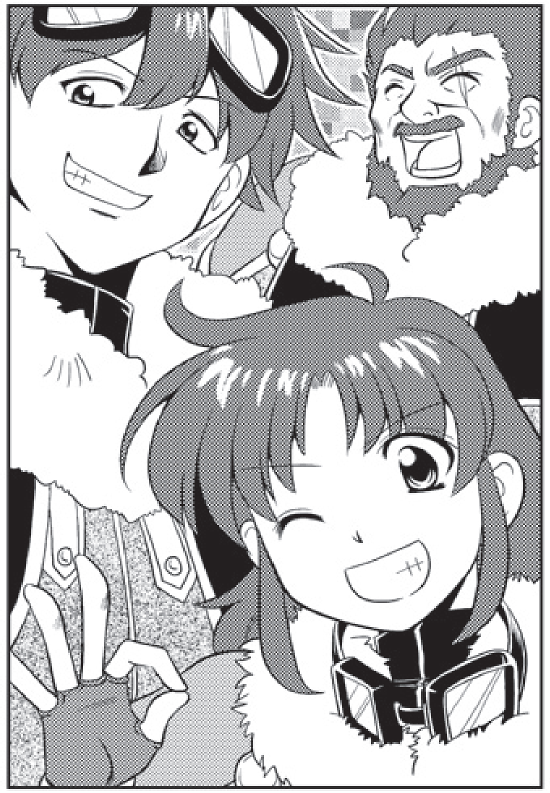

マキアス…
ふふっ…
語るに落ちた
ぐうっ……
フフ…
いいだろう その話 乗ってやる
俺の方が上手く合わせてやるから大船に乗った気でいるがいい
そっ…それはこちらの台詞だ!
せいぜい寛大な心を持って君の傲慢さに合わせてやろう…!
ユーシス様 お迎えにあがりました
アルノーか
――行ってきたまえ
ふふ せっかくご家族にお会いできる機会ですしね♪
午前中は俺たちだけで進めておくよ
だね
お前たち……


──わかった 午後にはそちらに合流する
戻るぞ アルノー
それじゃあユーシス 昼くらいにホテルのロビーで
ああ 俺無しでは心許ないだろうが せいぜい頑張ってこなすがいい
……
よし じゃあ 午前中はこのレストランの依頼というのから…
だから なんでそう君は上からなんだ…
ふふ…
な なんだ…？
その何か言いたそうな顔は…
いや マキアスのおかげで色々と良い方向に行きそうだと思ってさ
えらいえらい
なんだその生暖かい目は…！
そもそもリィン！
君とのわだかまりだってまだ無くなったわけじゃないんだぞ…！
え？ そうなのか？
君は…
……
いや… すまなかった…
昨日のことも含め 君にはちゃんと謝らせてくれ…
マキアス…
……
いや こちらこそすまなかった
少なくとも高貴な血は流れていない
そういう意味ではみんなと同じと言えるかな
貴族のこと… 最初の時に曖昧な言い方をした俺にも非があったんだ


フッ…
改めて… 同じ《Ⅶ組》メンバーとして これからよろしくな マキアス
ギュ
ああ…!
ふふ おふたり共 よかったですね
これぞ青春って感じ
ええい 茶化すんじゃない!
よし 出かけるか…
午後 ヤツが戻ったら 戦術リンク… 必ず成功させてみせる…!
キッ
そのまま仲直りすれば いいのに…


そろそろお昼だな…
キリもいいですし ホテルに戻ってみましょう ユーシスさんがいるかもしれません
おい! 止まれ!
バタ
なんだ…?
バタ
!?
領邦軍の兵士…?


士官学院1年…
マキアス・レーグニッツだな？
貴様を逮捕する
大人しくお縄に付いてもらうぞ
なに…？
絆が深まる《Ⅶ組》に突然の試練が――!?



みんな集まれ! ファルコム学園

新久保だいすけ

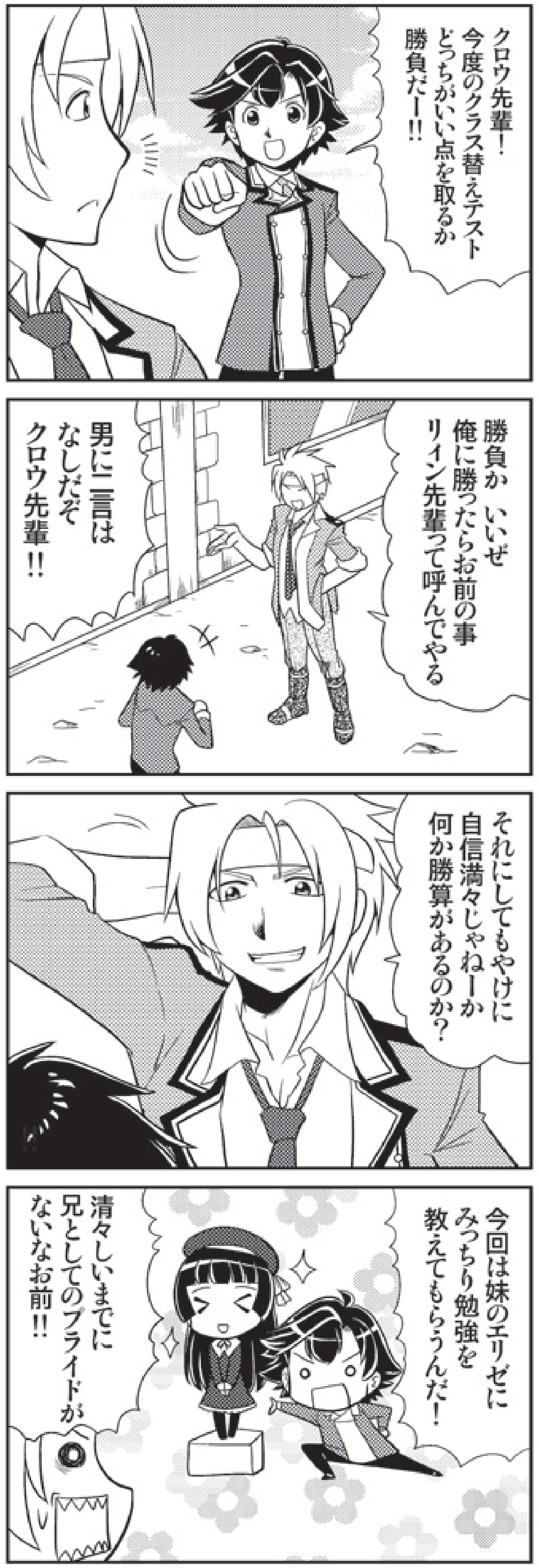
期待のクラス替え



キールの真相



リィンの勝算



フィーの秘策



ふたりだけの教室



さすおにとかけ算



エルクの奥の手



さらわれし者



ネタバレする魔物



気がついたコト



最恐の刺客



進　級



瓦解するカラス達



無意味な奥の手



そして零になる



今度の『空の軌跡』小説はナイアル&ドロシーが主役！



英雄伝説 空の軌跡 リベール王国スナップショット

シリーズ累計200万本を突破した、日本ファルコムの大人気RPG『軌跡』シリーズ。その中でも特に人気の高い『空の軌跡』シリーズから外伝小説が登場！　リベール通信社のナイアル&ドロシーの記者コンビが、リベール国内の取材旅行中に出遭った人たちとの触れ合いを描いていく、心温まるハートフルストーリー4篇を収録。

2015年
好評発売中!!

1,200円+税

判型：B6正寸　並製ページ数:296
ISBN：978-4-89610-846-0
発行元:フィールドワイ　発売元:メディアパル

FB ファルコム BOOKS

目指せ！ファルコム一番星!!

まさかのアニメ化!? 第２期決定!? ますます留まるところを知らない日本ファルコムオールスターギャグ四コマの最新刊がついに発売！ みんな集まれ一緒にゴーファイ!!



この面白さ、英雄級!?

既刊もよろしく!!





みんな集まれ！ ファルコム学園③

著者：新久保だいすけ

本体：850円+（税）

ISBN:978-4-89610-836-1

好評発売中!!

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら → www.field-y.co.jp

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

著：草薙アキ　イラスト：ＹａｈａＫｏ



第4話　新たなる〝扉〟

話は少し前に遡る。

リィンがフェリスとラクロスの練習試合をしていた時のことだ。

ここギムナジウムでは、ラウラとフィーが水着に着替え、ともに汗を流していた。

感情が高ぶった時にシンクロ現象が起きたのだ。

ならば何かに打ち込むことで、見えるものがあるのではないか、とラウラなりに考えたのである。

「……ふう。しかし凄いものだな。以前勝負した時も驚いたが、入れ替わったことでさらに実感することが出来た。さすがと言うべきか……」

自らの身体を改めて見渡し、ラウラ（見た目はフィー）は感嘆の声を漏らす。

隣のレーンでは、同じく水に浸かった状態のフィー（見た目はラウラ）が、「……それはわたしも同じ」と相変わらずの寝惚け眼で言った。

「ラウラの身体はとても力強い。でもそれでいて柔軟性に富んでいる」

「ふふ、そう言われると照れるな。だが素直に受け取っておこう。そなたに感謝を」

丁寧にお礼を述べた後、ラウラたちはプールサイドに上がる。

と。

「――二人とも凄かったですね。思わず見入ってしまいました」

「む？」

そう声をかけながら、ラウラたちの前に現れたのは、おっとりとした顔立ちに、赤毛のボブカットが映える、一人の少女だった。

ラウラの親友であり、水泳部の一年生でもある平民の生徒――モニカだ。

見た目同様、大人しい性格のモニカは、元々運動があまり得意ではなく、泳ぐこともほとんど出来なかったのだが、部活見学でラウラの姿を見たことで入部を決意――以降は彼女とともに研鑽を重ねてきた。

その甲斐あって、先月の下旬頃には五〇アージュを泳ぐことにも成功し、今も弛まぬ努力を続けている。

努力家の彼女ゆえ、どうやら今日も水泳の練習に来たらしい。

未だ発展途上のモニカからすれば、十分感嘆に値する泳ぎだったわけだが、ラウラは「いや、まだまだだ」と首を横に振った。

「確かにこの身体が持つポテンシャルは凄まじいと思う。だがそれは心身がきちんと噛み合ってこそ発揮されるものだ。悔しいが、今の私では七割……いや、多くて六割程度の力しか出せないだろう」

「そ、そうですか……。えっと、確かラウラのお友だちの……フィーさん、でしたよね？」

「うん？　何を言っている？　私はラウラだぞ、モニカ」

「え、えっと……」

どんっ、と薄めの胸を張り、自信に満ちた返答のラウラに、フィーが小声で釘を刺す。

（……ラウラ、今はわたしがラウラ）

（えっ？　あっ……）

それでラウラは気づいたらしく、慌てて弁解した。

「あ、いや、違うのだ、モニカ――じゃなくて、違うよ、モニカ！　わ、私はフィー！　フィー・クラウゼル！　そう、フィーなのだ！　……よ？」

「……よ？」

互いに小首を傾げ合い、固まる。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

（な、何が「よ？」なのだ、私ーっ⁉）

青い顔で滝のような汗を流すラウラに、横からフィーが救いの手を差し伸べた。

「……モニカ、今日はフィーが泳ぎに付き合って欲しいとお願いしてきたから、こうして練習に付き合っていた。そうでしょ？　フィー」

「そ、そうなんですか？」

「――はっ⁉　う、うむ。実はそうなのだ。こうした日々の鍛錬こそが、やがて実を結び、自らをより高みへと導いてくれるのだからな」

腕を組み、神妙な顔つきで頷くラウラに、モニカも「そ、そうですよね！」となんとか納得したようだった。

これにほっと胸を撫で下ろしたラウラは、小声でフィーに「すまぬ……」と謝るが、フィーの方は無言でVサインを作っていた。

気にするな、ということである。

「私もラウラに泳ぎを教えてもらったおかげで、やっと五〇アージュを泳ぐことが出来ました。もっと練習すれば、いつかラウラみたいに泳げるかもしれない――そう信じているからこそ、私も頑張ることが出来るんです」

思い出したように感慨深く語るモニカを、ラウラも微笑ましい表情で見つめていた。

モニカが言うように、確かに泳ぎ方の指導はした。



だが彼女がここまで上達出来たのは、ラウラの指導以上に、モニカ自身が一生懸命練習に励み続けたからだ。

それを知っているラウラには、一つの確信があった。

――いつかきっとモニカは、自分に匹敵する泳ぎを身につけるだろう、と。

もちろんただで負けるラウラではない。

これからも鍛錬を積み続けはするが、それでもいつか必ずモニカは追いついてくる。

それが出来る少女だ、とラウラは心の底からそう信じていた。

「……じゃあモニカも一緒に泳ごう。フィーも行ける？」

「無論だ」

頷くラウラに、モニカも笑顔で「私も頑張ります！」と答え、三人はそれからしばらくの間、互いを高め合ったのだった。

心身ともに気持ちよく汗を流したラウラたちは、身体が冷えないうちにシャワー室へと赴く。

シャワー室内にはすでに先客がおり、湯気を立ち上らせながら会話を楽しんでいた。

ラウラたちもそれぞれの個室に入り、ノブを捻る。

しゃっと熱めのお湯がノズルから飛び出し、些か冷えつつあった身体を温めてくれた。

「……ふう」

気持ちよさそうにシャワーを浴びるラウラの耳に、ふと隣の個室から女生徒の声が飛び込んできた。

「それにしても、先ほどのアリサの技には驚きましたわ。一体あの剣術紛いのシュートはなんだったんですの？」

「さあ？　もしかしたら、今日のために何か編み出したんじゃないかしら？」

それに答えるのは、さらに隣の個室の、どこか快活さを感じさせる声音の女生徒だった。

〝アリサ〟という単語もそうだが、先の女生徒の口調には覚えがある。

恐らくはアリサと同じラクロス部の部員で、同じ一年生のフェリスだろう。

そう判断したラウラは、悪いと思いつつも、少しだけ聞き耳を立てさせてもらうことにした。

フェリスの言う〝剣術紛いのシュート〟なるものが気になったからだ。

もっとも、今のアリサにはリィンの精神が定着しているので、そのような技を披露したとしても、なんらおかしくはない。

むしろラウラが着目しているのは、〝アリサの身体で行った〟という事実の方である。

「なるほど、〝必殺技〟というやつですわね……っ。当初は調子が悪いように見えましたけれど、あんな隠し球を持っていたとは……。さすがはわたくしのライバルですわ……っ」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「お、なんか燃えてる感じ？　じゃあフェリスも何か編み出してみたらどうかしら？　練習ならあたしも付き合うわよ？」

「ええ、是非お願いしますわ！　今回は引き分けに終わってしまいましたけれど、次こそは必ずや勝利を掴んでみせますわ！」

「お、いいねえ！　ならあたしも頑張るわよ～っ！　トールズー！　ファイ・オー！　レッツ・ゴーッ！」

「ファイ・オーですわーっ！」

「ちょっとうるさいわよ、二人とも。シャワーぐらい静かに浴びなさいな」

そんなやり取りを耳にし、ラウラは思う。

(リィンたちも現状の中でやれることを精一杯やっているのだな。私たちも頑張らねば)

シャワーを浴び、ギムナジウムを出た頃には、外はかなり荒れており、閃光に連なって、魔獣の唸りにも似た音が轟き続けていた。

「ふむ、これはしばらく止みそうもないな」

「そうだね」

本校舎に戻った二人は、来る途中に濡れた箇所をタオルで拭く。

ふと窓から外を見れば、雨が叩きつけるように押し寄せ、窓ガラスが心許なくかたかたと揺

れていた。

「とりあえず二階の談話スペースに行かぬか？　少し休息も必要だろう」

「……ん。分かった」

階段を上り、談話スペースへと赴いた二人だったが、ふいに彼女らの鼻腔を何やら甘い匂いがくすぐった。

調理室から漂っているのかと思ったが、どうやら違うらしい。

原因は彼女らの眼前にあった。

談話スペースのソファーにどっしりと腰かけた黄色いツナギの男子生徒が、美味しそうに円形のアップルパイを頬張っていたからだ。

少々恰幅の良いその生徒は、ラウラたちにも面識のある人物だった。

ジョルジュ・ノーム。

平民かつ学生の身でありながら、学院の技術棟を任せられるほどの優秀な技術者で、技術部の部長を務める、温厚な性格の優しい先輩だ。

彼の技術力の高さは、すでにルーレ工科大学からオファーが来るほど。

アンゼリカの導力バイクも彼が組み上げたものであり、アンゼリカやトワ、クロウとは、一年の頃からの仲である。

なお、見てくれからも分かるように、甘いものをこよなく愛している。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

ラウラたちの存在に気づいたジョルジュは、柔和に笑いながら言った。

「やあ、君たちも食べるかい？」

ずいっ、と差し出してくるのは、お皿に乗った件のアップルパイだ。

見れば、テーブルの上には、お皿に乗ったアップルパイが幾つも並べられていた。

「……いいの？」

「もちろん。確か今はラウラじゃなくてフィーだったね？　どうぞ」

「サンクス」

ジョルジュからお皿を受け取ったフィーは、彼の向かいに腰かけ、ぱくりとパイに食らいつく。

「……ん。美味」

「それはよかった。ここのパイは僕のお気に入りなんだ。君もどうだい？」

「いえ、私は……」

と——くぅ～。

「うっ……」

唐突に鳴ったお腹の音に、思わず赤面するラウラ。

「はは、無理せず食べるといいよ。まだいっぱいあるしね」

言って、ジョルジュは脇に置いてあった袋を、見せつけるように持ち上げる。

かなりの重量に見えるが、一体いくつ買ったのか。

それ以前に、あれを全部一人で食べるつもりなのか。

様々な疑問が湧いたラウラだったが、それについては考えないことにした。

何故なら喋りながらも黙々とパイを食べるジョルジュは、お皿に乗ったパイが無くなると、袋からパイを取り出して並べ、またパイが無くなったかと思えば、次のパイを取り出していたからだ。

大した健啖家である。

「では遠慮なくいただきます」

「はい、どうぞ」

「「……もぐもぐ」」

「どうだい？　なかなかのものだろう？」

「ええ、とても美味しいです」

「はは、それは何よりだよ」

微笑みながらパイを大きく一齧りするジョルジュに、ラウラは尋ねる。

「先輩はいつもここで休息を？」

「うん。技術棟で食べてもいいんだけど、あっちは油臭いからね。せっかくの出来立てだし、香りも楽しみたいと思ってね」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「なるほど。私たちも泳いだ後だったので、甘いものが心地良く感じます」

「そうだろう？　まあ僕の方は運動はからっきしだけどね。もっとも、このお腹を見れば一目瞭然かな？」

ぽんっ、と自身のぽっこりお腹を軽く叩くジョルジュ。

「いえ、先輩はその分頭を使っていますし、糖分の補給は大事だと思います」

「はは、ありがとう。そう言われると、おかわりしたくなってきちゃうな」

そう言って、ジョルジュは袋に手を突っ込む。

「……さすがに食べすぎ」

「いやいや、今日はこれでも少ない方さ」

「……それは驚き。ダイエット？」

「まさか。この天気だろ？　お店の方もあまりお客さんが来ないと思ったのか、いつもより作る量をセーブしたみたいなんだ」

「……ん。納得」

「まあ僕としては悲しい限りだけどね。……いや、待てよ。それなら別のものを買えばよかったのか。うーん、残念」

と言いつつ、再び一齧りするジョルジュ。

「……先輩はいつもパイを食べてるの？」

「いや、そうとは限らないよ？　甘いものなら大歓迎だからね。昨日もクレープを三種類ほど食べたし」

「はは、まあそう言わないでよ。で、昨日食べたクレープなんだけど、これも僕のオススメでね？」

「……やっぱり食べすぎ」

「……ん」

「とくにバナナクレープとチョコバナナクレープ、それから山盛りいちごクレープの三種類が一押しなんだけど――」

と、他愛もない会話をしつつ、二人が一つずつパイを食べ終えた頃には、ジョルジュはテーブルに残ったパイと、袋の中にあったパイ全てを食べ終えていた。

「うん、美味しかった。これで残りの作業も頑張れるよ」

「ええ、私も元気が出た気がします。ご馳走さまでした」

お皿を返し、ラウラは頭を下げる。

次いでフィーも、「ごちそうさま」と礼を言った。

「どういたしまして。それよりどうだい？　元には戻れそうかい？」

「いえ、それがさっぱり……」

俯くラウラに、ジョルジュは「うーん」と両腕を組んだ。

「確かに現状は大変かもしれないけど、〝戦術リンクの性能を向上させる〟というコンセプト自体は悪くないと思うんだ」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「と言いますと？」

「うん。退屈な話かもしれないけど、聞いてくれるかい？」

「はい」

こくり、と頷いたラウラに、ジョルジュは瞳を輝かせた。

技術者として、自分の考えを聞いてくれることが嬉しいのだろう。

ちなみにフィーは、お腹がいっぱいになったことで眠くなったらしく、別の意味でこくりこくりと船を漕いでいた。

「まず基本的なことのおさらいから始めるけど、このARCUSを使用して、味方同士をリンク――つまり〝繋げる〟ことで、共鳴させ、高度な連携を可能とさせるのが、いわゆる〝戦術リンク〟というものだよね？」

自身のARCUSを見せながら言うジョルジュに、ラウラも「ええ、そう理解しています」と首肯する。

「で、具体的にどういうことが出来るのかと言えば、味方の攻撃で相手が体勢を崩した際、すかさず追撃を行ったり、結びつきが強くなればなるほど、ラッシュやバーストといった派生攻撃が出来るようになったりする。他には共鳴による基礎能力の向上や、味方を庇うことだって出来る」

「そうですね」
「うん。今回はそれを強化しすぎて、〝互いの精神が入れ替わる〟という事態を引き起こしてしまったわけだけど、そうなる直前まで引き上げることが出来れば、二つの視点が一つになるわけだから、相手の体勢をさらに崩しやすくなったり、追撃を行うタイミングも狭まるから、間髪を容れない〝連続攻撃〟というものが可能になるかもしれない。ラッシュや庇うといった行為も強化出来るはずだよ」
「なるほど。確かにシャロン殿もそう言っていました。〝二心一体〟の攻防が可能になるだろうと」
「うん、僕もそう思う。だから技術者としては、是非この技術を完成させて欲しいと思うんだ。もちろん君たちが元に戻ることが先決だけどね」
　頭を掻きながら笑うジョルジュに、ラウラも微笑みながら、「ありがとうございます」と再び頭を下げた。
「いやいや、現状僕は何も出来ないからね。まあちょっとでも触らせてくれるというなら話は別だけど。とにかくまた甘いものが食べたくなったらおいでよ。そのくらいなら僕にも出来るからさ」
「はい。本当にありがとうございました」
「どういたしまして。じゃあ僕はこれで」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

　よいしょっ、と腰を上げたジョルジュを、ラウラは三度頭を下げ、見送った。
　余談だが、ジョルジュを見送った際、遠くの方から「た、助けてくれ、サリファ!?　サリファ～っ!?」と何者かの悲痛な叫びが聞こえた気がした。

「……なるほど。そういうことでしたか……」
　時同じくして、トワから事情を説明されたエリゼは、ようやく事態を把握出来たと見え、自分の行動を恥じつつ、落ち着きを取り戻していた。
　あの後、寮を飛び出したエリゼは、偶然《ケインズ書房》前を通りかかったトワによって、無事保護されていたのだ。
　寮一階の談話スペースで、トワの話を聞き終えたエリゼは、向かいのソファーに横たわるアリサ（見た目はリィン）を見つめる。
「う、う～ん……」
　先の衝撃が強すぎたのか、アリサは未だにうなされているようだった。
「それで……リィン兄様？」
「ああ、今はそういうことになっている」
　疲れたような表情を見せるのは、部屋着に着替えたリィンだ。
　アリサともども、シャロンに着替えさせてもらったのである。

その際、もちろん目隠しをされたわけだが、彼女がアリサを着替えさせた時、「あらあら、これはまあ……うふふ」と変な声が聞こえたことだけが、リィンは今も気がかりだった。

「では今一度お伺いしますが、先ほどのことは単に汗を掻き、雨に濡れたからであって、他意はなかったのですね？」

「もちろんだ。本当はシャロンさんに頼む予定だったんだが、タイミングが合わなくてな。このままでは風邪も引いてしまうということで、仕方なく二人とも目隠しして洗うことにしたんだ」

「なるほど……」

どこかほっとした様子のエリゼに、リィンも誤解が解けて良かったと胸を撫で下ろした。

が。

「お二方の事情は分かりました。ですが！」

「うっ⁉」

ずいっ、と顔を寄せてきたエリゼに、リィンは思わず身を引く。

エリゼの甘い香りが鼻腔を刺激する中、彼女は捲し立てるように言った。

「お付き合いもしていない男女がともに入浴するなど、如何なる理由があろうとも、さすがに控えるべきです！　シャロンさんが不在であれば、事情を知る他の方にお願いすることも出来たはず！」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「いや、まあそうなんだが……」

「にもかかわらず！　リィン兄様はアリサさんと……ふ、不埒な真似を！」

両手で顔を覆うエリゼの頬は、今にも発火しそうなほどに真っ赤だった。

「お、落ち着いて、エリゼちゃん。きっとリィン君たちは、凄く切羽詰まった状況だったんだよ。そうだよね？　リィン君」

「え、ええ。あの時はとにかく早く身体を温めないとという一心で、他の誰かに頼むという考えが浮かびませんでした。たぶんアリサも同じだったと思います」

「ほ、ほら、エリゼちゃん。リィン君もこう言ってるし、仕方ない状況だったんだよ。ね？」

「それは私も分かっています……。ですが……うぅ……」

「うん、分かるよ。よしよし」

しくしくと涙を流すエリゼの頭を、トワが優しく撫でる。

ほとんど同い年くらいにしか見えない両者であるが、トワはエリゼよりも三つ、リィンやアリサよりも一つ上のお姉さんである。

それを忘れそうになるリィンだったが、今考えるべきはエリゼのことだ。

やはりショックが大きかったのだろう。

不可抗力とはいえ、悪いことをしてしまった。

内心自らの行いを省みながら、リィンは二人の様子を見据える。

トワに宥められたことで、エリゼも落ち着いたようだ。

と。

「……あら？　私、一体……」

意識の回復したらしいアリサが、顔を伏せながら上体を起こした。

「アリサ、気がついたのか？」

「……リィン？　それにトワ会長にエリゼさん、シャロンも……って、シャ、シャ、シャロン⁉」

「はい。おはようございます、お坊ちゃま」

艶然と微笑むシャロンに、アリサはずんむりと双眸を見開く。

「い、いつ戻ってきたの⁉」

「はい。お坊ちゃまとリィンさまが、仲睦まじく浴室で汗を流されている時に」

ぽっ、と桜色の頬に手を添え、どこか恥ずかしそうに言うシャロンに、当然、アリサは「な、仲睦まじく入ってなんかいないわよ⁉」と否定する。

が、アリサ以上にシャロンの言葉を真に受けている人物が、この場にはいた。

そう、エリゼだ。

「や、やはりリィン兄様とアリサさんは……っ⁉」

青い顔で後退るエリゼに、トワも「え、エリゼちゃん？」とたじたじだった。

「お、おい、エリゼ？」

しかしエリゼは自分を呼ぶリィンを手で制し、「……いえ、もういいんです」と彼に背を向けた。

「いずれリィン兄様にもこういう時が来るというのは覚悟していました……。私はリィン兄様の妹です……。兄の幸せを願うのは妹として当然のこと……。ですから……ですから私は……っ」

溢れる涙を必死に堪えながら、エリゼはリィンの方を一度だけ振り返り――ダッ！

「――ど、どうかお幸せにぃ～っ！」

「お、おい、エリゼ⁉　どこへ行くんだ、エリゼーっ⁉」

リィンの制止も聞かず、エリゼは再び寮を飛び出していった。

『……』

場を静寂が包むこと数秒。

「ふふ、〝青春〟というのは、なんとも歯痒いものですね、お坊ちゃま」

「〝ふふ〟じゃないわよ……。今のは完全にあなたのせいでしょ……」

アリサに半眼をぶつけられ、さすがのシャロンも反省したのだろう。

申しわけございません、と皆に対して真摯に頭を下げた。

「お坊ちゃまとエリゼさまがあまりにも良い反応をされるのでつい……」

「……はぁ。もう十分楽しんだでしょう？　大事にならないうちに、エリゼさんを捕まえて来て頂戴」

「承知いたしました。このシャロン、命に替えましても、必ずやエリゼさまをお連れいたしますわ」

「ええ、頼んだわよ」

「はい。ではその前に、一度皆さまにARCUSをお返ししておきますね」

そう言って、懐から新型のARCUSを取り出したシャロンは、それをリィンたちに手渡した。

「それでは失礼いたします、皆さま」

「すみません。エリゼのことをよろしくお願いします」

「お任せください」

頷き、シャロンは再度一礼した後、二本の傘を手に、エリゼの後を追う。

「……あら？」

だがシャロンが取っ手に手をかける直前、ふいに扉の方がすっと開いた。

一瞬エリゼが戻ってきたのかと思った一同だったが、そこにいたのは、同じ《Ⅶ組》の女子――ラウラとフィーだった。

「おや？　シャロン殿？」

「お帰りなさいませ、ラウラさま、フィーさま」

「……ん。ただいま」

道を譲ったシャロンの脇を、ラウラとフィーが通る。

途中、シャロンは思い出したように、「あ、お二方にもお返ししておきますね」とARCUSを取り出した。

「……サンクス」

「もうよいのですか？」

「ええ。結果については後ほど詳しくお伝えしますので」

それだけ残し、シャロンは「では」と軽く会釈して、エリゼを追っていった。

「ふむ？　何かあったのか？」

「ああ、実は――」

リィンがラウラたちに事の顛末を話せば、彼女らも「ふむ、何故私たちに頼まなかったのだ？」「……右に同じ」と不思議そうな顔をしていた。

「……はぁ」
　消沈するリィンとアリサに、「あはは……」と苦笑いのトワだが、話題は現状の打開策へと移る。
「ところで、ラウラたちの方は何かいい案は見つかったのか？」
「いや、一応先ほどジョルジュ先輩とも話したのだが、何も出来ないのが現状だと言っていた」
「そうか……」
「まぁ一応ラインフォルトの最高機密だしね。シャロンの許可が下りれば、ジョルジュ先輩にも見てもらうことが出来るのだけれど……」
「そうだな。とにかく今はシャロンさんが戻ってくるのを待とう。何か情報を掴んでくれたかもしれないしな」
「そうね」
　頷き、トワを含めた五人は、シャロンとエリゼの帰りを待つ。
が。

――五分後。

「……来ないわね」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「来ないな」
「まだ行ったばかりだろう？　そなたの妹御を探して戻ってくるのならば、もう少しかかってもおかしくはないはずだ」
「……ん。わたしもそう思う」
「そうだね。もうちょっと待ってみようよ」

――一五分後。

「……そろそろ来てもいいんじゃないかしら？」
「そうだな。でもこの雨だし、時間がかかるのは仕方ないさ」
「うむ、〝果報は寝て待て〟とも言うしな」
「……じゃあ寝て待つ。おやすみ」
「ちょ、ちょっとフィーちゃん⁉」

――三〇分後。

「……さ、さすがにちょっとかかりすぎじゃないかしら？」

「そうだな……。もしかしてエリゼの身に何かあったんじゃ……っ⁉」
「落ち着くがよい。そなたまで冷静さを失ってどうするのだ？」
「……すー……すー……」
「……も、もうフィーちゃん……風邪引いちゃう……すー……」

　そして待つこと一時間後――ついに寮の扉が開いた。
「「「――っ⁉」」」
　逸る気持ちを抑え、リィンたちは期待を込めた眼差しを扉に向け、

「――お、いたわね～♪」

「「「……」」」
　早々に視線を外し、三人揃って嘆息した。
「ちょ、ちょっと何よぅ！　さすがに喜べとは言わないけれど、何もため息吐くことないじゃない！」
　落胆した様子のリィンたちに、扉を開けた女性ことサラが抗議の声を上げる。
　ずかずかと大股で近づいてきたサラに、リィンは「すみません……」と謝罪した。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「実は俺たち、シャロンさんの帰りを待っていまして……」
「あらそう。愛する担任よりも、綺麗なメイドさんの方がいいってわけね」
「いえ、別にそういうわけでは……」
　年甲斐もなく頬を膨らませるサラに、リィンもどうしてよいものかと困り顔だった。
　もちろん〝愛する担任〟に関しては、全力でスルーだ。
「まあいいわ。それよりいい情報を手に入れてきたわよ」
「情報？　何か分かったのですか？」
　ラウラの問いに、サラは自信ありげに頷く。
「ええ、たぶん今回の騒動に関係あることだと思うわ」
「ほ、本当ですか⁉　もしかして元に戻れる方法が分かったとか⁉」
　一番の食いつきを見せるアリサに、サラは「ふふ～ん♪」と上機嫌だった。
「それで、一体何が分かったんですか？」とリィン。
「まあ待ちなさい。その前に、お酒を持って出たはずのあたしが、すでに早めの晩酌に洒落込もうと思っていたはずのこのあたしが！　何故その情報を得るに至ったか――気になるでしょう⁉」
「え、ええ……」
　有無を言わせないサラの気迫に圧され、リィンは半ば強制的に頷かされた。

本当は皆のためにも〝いい情報〟という方を聞きたかったのだが、サラはそこに至るまでのことをすこぶる話したがっている。

たとえ聞かなかったとしても、面倒見の良いサラのことだ——情報を教えてはくれるだろう。

だがせっかくリィンたちのために情報を仕入れてきてくれたのだ。

その思いに報いるのは当然のこと。

リィンたちはそう考え、サラの話に耳を傾けることにした。

「君たちならそう言ってくれると信じていたわ。さすがはこのあたしの教え子たちね。ほっぺにちゅーでもしてあげようかしら」

したり顔で頷くサラに、ラウラは「いえ、それは結構です」ときっぱりお断りする。

「何よぅ、連れないわねぇ」

再度膨れ面になったサラに、ラウラは「それで」と話を進めるよう促す。

「サラ教官の身に何があったのですか?」

「そう、それなのよ! ホント嫌になっちゃうんだけど、あたしは今の今まで旧校舎の調査をしていたのよ——学院長に頼まれてね」

「学院長に?」

「ええ。君たちが毎月調査をしてくれているように、あたしもちょくちょく潜ってはみているのだけど、ここ最近はちょっとご無沙汰でね。で、あれから学院長にばったり会っちゃって、

お酒を半分没収された挙げ句、《Ⅶ組》が大変な事態にあるのだから、教官である君も頑張りなさいって感じで、調査を命じられたってわけ。あそこほどおかしな空間もないし、もしかしたらなんらかの影響を受けているかもしれないってね」

「なるほど。それでサラ教官は旧校舎の……五層、だったかしら? に潜っていたわけですね?」

「ええ、そう。まったく、ただ調査するだけなら、何もあたしのお酒を没収する必要ないじゃない。絶対自分で飲むために違いないわ」

「あはは……」

ぶつぶつと恨み節を口にするサラに、苦笑いのリィンたち。

「でも五層なら俺たちも調査しましたし、いつも通り最奥の魔獣も倒しました。残っているのは、そこまで手こずらない程度の、一般的な魔獣だけだと思うのですが……」

「そうね。あの程度の魔獣なら、あたしにとっちゃ造作もないレベルよ」

腐っても元A級遊撃士のサラだ。

当然だろう。

「だと思います。もしかして他に何か〝変化〟が?」

リィンの言う〝変化〟とは、今を遡ること二ヶ月前——七月中旬頃の話。

旧校舎の地下四層の調査中、謎の赤い〝扉〟を発見したのが始まりだった。

その〝扉〟は何をしても開けることが出来ず、調査を後回しにしていたのだが、ふとしたこ

とから旧校舎にエリゼが迷い込んでしまった際、何故か〝扉〟が開き、中から《大崩壊》後の戦乱時代――通称〝暗黒時代〟の産物とも言える、〝首のない甲冑のような魔獣〟が現れたのである。

あの時はクロウの応援と、リィンの中に眠る〝力〟のおかげでなんとか撃退することが出来たのだが……。

「ええ、リィンの想像通りよ。四層の時と同じく、五層にも新たな〝扉〟が出来ていたの」

「「――っ!?」」

息を呑むリィンたちに、サラは続ける。

「そして以前と同じように、言語と思われる音も聞こえたわ。ただどこかくぐもったような感じだったから、断片的ではあるのだけど、それでも《起動者》候補〝精神の同調〟〝試し〟という単語は確かに聞こえた。どう？　いい情報だとは思わない？」

微笑むサラに、リィンたちは大きく頷く。

「ええ、もしそれが本当だと言うのならば、恐らく解決の糸口がそこにある気がします」

「そうね。私もなんだか元に戻れる気がしてきたわ」

「そうだな。ならば早速向かうとしよう」

頷き合う三人に、サラも「うんうん」と満足げな様子だった。

「ありがとうございます、サラ教官。おかげで希望が見えてきました」

「あら、別にいいのよ、お礼なんて。でも君たちがどうしてもお礼がしたいと言うのなら――そうね、《キルシェ》で一杯やるってのはどう？　もちろん君たちが元に戻った後にね」

図々しそうに見えながらも、にこやかにウインクするサラに、リィンたちも口元を綻ばせる。

「分かりました。その時は奢らせていただきます」

「右に同じです。今回のことは、私の責任でもありますから……」

「いや、そなたのせいではあるまい。旧校舎に以前と同じ〝変化〟が現れた上、〝精神の同調〟などと、関与を疑わせる発言をしたとサラ教官は言った。である以上、ＡＲＣＵＳは何かしらの影響を受けただけにすぎぬ。あまり自らを責めぬことだ」

「ありがとう、ラウラ。とにかく今は旧校舎に向かいましょう。それで全てが分かるはずよ」

「ああ」「承知した」

リィンとラウラが揃って頷けば、「……ん。じゃあ行こう」とフィーが目を擦りながら言った。

「フィー、起きていたのか？」とリィン。

「……ん。会長はまだ寝てるみたいだけど」

言われて見れば、トワは未だに静かな寝息を立てていた。

「……すー……」

『――』

なんともあどけない寝顔に、ほっこりとした気持ちになるリィンたち。

彼らはそのままトワを起こさないよう、静かに旧校舎へと向かった。
もちろんシャロンたちには置き手紙で、すぐ帰る旨を残している。
そうしてリィンたちが旧校舎に入り、地下五層へと向かおうとした時のことだ。

――ゴゴンッ！

『――なっ⁉』
唐突に大地が唸り、リィンたちは何ごとか踏ん張り、揺れに耐える。
揺れはごく小規模の上、すぐに収まり、リィンたちは互いの無事を確認し合う。
「皆、大丈夫か？」
「ええ、私は大丈夫よ」
「私も問題はない。フィーやサラ教官も無事のようだ」
「……たぶん下からだね。もしかしたら、サラの言う〝扉〟が開いたのかも」
「その可能性はあるわね。当事者であるリィンたちが訪れたことで、〝扉〟の方が反応したのかもしれないわ」
「なるほど。歓迎されてるってわけね」
皮肉を込めて言うアリサだが、彼女の口調はどこか嬉しそうだった。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

恐らく元に戻れるかもしれないという期待が、無意識のうちに滲み出ているのだろう。
出来ればリィン自身、早くアリサの期待に応えてあげたいと考えていた。
しかし焦りは禁物だ。
最悪四層と同等か、それ以上の魔獣が相手となる可能性もあるのだから。
「とりあえず五層に行ってみよう。ただこの先は何が起こるか分からない。皆も十分気をつけてくれ」
『――』
一同が静かに頷き、リィンは昇降機のパネルを操作する。
地下五層に到着したリィンたちは、改めて周囲を観察した。
「ここら辺はとくに変化していないようね」
「そうだな。俺も前に来た時と同じように見える」
「サラ教官、例の〝扉〟とやらが現れたのは、もっと奥の話で？」
ラウラの問いに、サラは「ええ」と頷く。
「あたしが見つけたのは、ここの最も奥の広間ね。まあそこまでは、楽しいピクニックだとでも思いましょう」
「……そだね。でも武器はどうするの？」
小首を傾げるフィーに、リィンは腕を組んで考える。

いくら精神が入れ替わったとはいえ、やはり各々の使い慣れた武器に勝るものはないだろう。だが数刻前に試した際、心得があるにもかかわらず、皆は自らの武器を思うようには扱えなかった。

確かにサラは付いているが、先の見えない状況である以上、分不相応な武器を扱うのは得策ではない。

ならば心得に乏しかろうとも、肉体に合わせた武器を使用するべきか。

悩みどころではあるが、リィンは判断を下す。

「武器は各々の身体に合う方にしよう。経験は浅い、もしくは皆無かもしれないが、最低限振れるだけの力はあるはずだ」

「そうね。私も賛成よ」

「承知した。〝扉〟に辿り着くまでに慣らすとしよう」

「Ｊａ（ヤー）」

互いに頷き合い、リィンはアリサの導力弓を、アリサはリィンの太刀を、ラウラはフィーの双銃剣を、フィーはラウラの大剣をそれぞれ握る。

弓を引き、感触を確かめるリィンに、アリサは些か驚いたような表情を見せた。

「とても素人のようには見えないのだけれど、もしかして弓の心得があるの？」

「ああ、一応な。と言っても、狩りの時に使ったくらいだから、心得というほどのものではないんだが……」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「なるほど。でも筋がいいように見えるわ。欲を言えば、もう少しここをこうして……」

密着し、リィンに弓の手解きを行うアリサだが、

「そうそう、それでもう少し手首を――あっ……」

「うん？」

ふいにリィンと視線がぶつかり、自分の鼻先数センチのところに、彼（正確にはアリサ）の顔があることに気づく。

「～～っ!?」

瞬間、かあっとアリサの頬が上気し、彼女は脱兎の如くリィンと距離を取った。

「……アリサ？」

が、リィンの方はそんなアリサの気持ちに気づいてはおらず、不思議そうに首を傾げていた。

「青春ねえ」

「ち、違います！」

全てを悟ったように言うサラに、渾身の突っ込みを入れるアリサの横で、ラウラとフィーも互いの武器を指南し合っていた。

「うむ、そうだ。武器の重さに振り回されないようにしつつも、重さを活かすのを忘れるな。重心を低く――そう、腰を使うのだ」



――ブンッ！

「……ん。なんとなく分かってきた」

「さすがだな。飲み込みが早い。どうだ？ これを機にアルゼイド流を学ばぬか？」

「……それもいいかも。考えておくね」

「ああ、そうしてくれ。では私の方も頼む」

ラウラがそう言えば、フィーは素振りを止め、相変わらず眠そうな顔で近づいてきた。

「……双銃剣は、〝双剣〟と〝双銃〟が組み合わさったもの。一撃の重さより、連撃による〝速さ〟に重きを置いている」

「そうだな。小柄なフィーには最も適した武器だと思う」

「サンクス。わたしもこの剣はラウラにぴったりだと思う」

「ふふ、それは嬉しいな。そなたに感謝を」

ほんわかと良い雰囲気の二人を見た後、サラはリィンたちの方（主にアリサ）を振り向いてこう言った。

「あれはあれで青春なのかしら？」

「わ、私が知るわけないじゃないですか!?」

「でもアリサも自分の顔を見て赤く」

「なってません！」

「もう、冗談よぅ。そんなに怒らなくてもいいじゃない。ねえ？」

「知りません」

ぷいっ、とそっぽを向いてしまうアリサに、リィンはなんと声をかけるべきか迷い、苦笑い気味に頭を掻くことくらいしか出来なかった。

一通り武器の感触を確かめたリィンたちは、サラの言う〝扉〟へ赴くべく、調査済みの五層内部を進んでいく。

「はっ！」

――ズバッ！

フィーの振り下ろした大剣が、紫色の体色をした魔獣を一気に斬り裂く。

斬られた魔獣は、換金用のアイテムである〝セピス塊〟を残して消滅した。

「たあっ！」

次いでリィンの放った矢が別の魔獣に突き刺さり、

「ふっ！」

アリサの繰り出した斬撃が追い打ちとなって、魔獣を消滅させる。

「せいっ！　やあっ！　砕け散れ！」

隣ではラウラが双銃剣での連撃を放った後、魔獣に銃弾を浴びせていた。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「……ふう。これでこの辺の魔獣はあらかた片付いたようだな。皆も無事か？」

「ああ、俺は大丈夫だ」

「私も問題ないわ。フィーは大丈夫？」

「……ん、大丈夫。サラは……心配しなくてもいいか」

「ちょっとどういうことよ？　あたしだってか弱い女の子なのよ？」

そう膨れつつも、今回サポートに徹しているサラは、当然、無傷だった。

いつもとは違う状況ゆえ、サラ自身、手を貸したい気持ちはあった。

しかしこれが旧校舎と〝扉〟の試練だと言うのならば、酷でもリィンたちの力で乗り越えなければならない――そう判断したのである。

「……サラは〝女の子〟って歳じゃないかな」

「あら、言ってくれるじゃない。ちょっと詳しい話を聞きたいわね」

笑顔で額に青筋を浮かべるサラにご指名を受けたフィーは、「……それはまた今度」と逃げるようにラウラの後ろへと隠れた。

「ふむ？」

が、体格差が逆になっているため、見事にはみ出していた。

「……はあ、まあいいわ。それで君たちの方だけど、入れ替わってる割には、意外と様になってるじゃない。これならとくに心配もいらないわ――この程度の魔獣なら、ね」

「「「……」」」

そう、〝この程度の魔獣なら〟である。

幾たびも戦場を越えてきたサラには分かるのだろう。

この先には、〝この程度〟では済まない魔獣が控えているということを。

一転して緊張した面持ちになったリィンたちに、サラは柔らかく告げる。

「そう固くなることはないわ。君たちの頑張りは、担当教官であるこのあたしが誰よりも知っている。そのあたしが大丈夫だと言うのだから、胸を張って戦いなさい」

「サラ教官……」

胸に込み上げるものを感じつつ、リィンたちは互いに目配せし、力強く頷く。

「はい！　必ず全員で乗り越えてみせます！」

「うんうん、それでこそ君たち《Ⅶ組》よ」

嬉しそうに頷くサラに見守られながら、リィンたちは次々に魔獣を倒していった。

初めて扱う得物が多いにもかかわらず、リィンたちの快進撃は続く。

サラの叱咤激励が、彼らの背中を力強く後押ししていたからだ。

「――せやっ！」

バシュッ！　とリィンの矢で最後の魔獣が消滅し、ついに彼らは例の〝扉〟があるという、地下五層最奥の間へと到着する。

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「これは……」

そこでリィンたちが目にしたのは、昇降機で下りる前にフィーが言ったように、ぽっかりと大口を開けている〝扉〟の姿だった。

やはり先ほどの揺れは、この〝扉〟が開いたことを知らせていたようだ。

「ますますきな臭くなってきたわね。一体この先に何が待っているというのかしら？」

「それは分からぬ。ただ私たちを迎えているというのは確かであろうな」

「そうだね。この先はさらに注意しないと」

「ああ、そうだな。きちんと準備を整えてから出発しよう」

頷き、一同は今一度装備のチェックをする。

一応この状態でもアーツが使えることは確認済みだが、それでも戦闘中は何が起こるか分からない。

どんな事態にも対処出来るよう万全を期す必要がある。

リィンたちは持参したアイテムを一箇所にまとめ、それを偏りがないよう再分配する。

詳細は割愛するが、例を挙げれば、ティアやティアラの薬等の回復薬、EPチャージ、解毒薬、煙り玉などだ。

皆にアイテムが行き届いたことを確認したリィンは、「よしっ」と勢い込み、〝扉〟の奥を見据える。

　そこは常闇を封じ込めたように暗く、中に光がほとんど届いていないように見えた。

「どうやら一筋縄ではいかないようだな」

「ああ。とにかく気をつけて進もう。皆、準備はいいか？」

「ええ、大丈夫よ」

「……ん。わたしも」

　準備が整ったリィンたちを、サラは「うんうん」と微笑ましそうに見つめ、言った。

「――じゃあ皆頑張ってきなさい。あたしはここで待ってるから」

「えっ……？」

　その言葉が予想外だったのか、リィンたちは呆けた顔になっていた。

「……サラは来ないの？」

「こらこら、甘えるんじゃないの。この〝扉〟は君たちが来たことで開いたのよ？　つまり君たちじゃないとダメってこと。だからあたしの役目はここまで」

『……』

　微笑みながらそう言うサラに、リィンたちは無言で互いを見やり――頷いた。

「分かりました。では少しだけ待っていてください。俺たちは必ず戻ってきますから」

英雄伝説 閃の軌跡
～メンタルクロスリンク～

「ええ、分かったわ。でも無理はしないこと。いいわね？」

「「はいっ！」」「……ん」

　大きく頷き、リィンたちはサラに背を向け、〝扉〟の中へと進んでいく。

　彼らの背中が暗闇の奥に消えるまで、サラは一度も目を逸らさず、しっかりと前だけを見据えていた。



ファルコムラジオがリニューアル！まずは「そららじ」の魅力をチェック！

2011年10月から今年の4月10日まで放送されていた「ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります」が、6月11日に『英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution』の発売することを受けてリニューアル！　パーソナリティは『空』の主人公、エステルとヨシュアをそれぞれ演じられた神田朱未さんと斎賀みつきさんをお迎えし、タイトルもズバリ『エステル&ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオ』（通称：そららじ）。長年ゲームやドラマCDでコンビを続けてきたふたりの息ピッタリなトークが楽しめるラジオになっているぞ。まずは今回は、各コーナーについてご紹介。ファルコムマガジンも今まで以上にラジオに注目していく予定なので、「こういうことを知りたい！」、「こういう連動企画をして欲しい！」ということがあれば、どんどんファルコムマガジンのメールやツイッターまで！



みんな解けるか?! ファルコム検定

毎回『空の軌跡』に関するクイズを出題し、リスナーが“あえてボケる”という、検定とは名ばかりの大喜利コーナー。オリビエの用法容量にはくれぐれもご注意を！



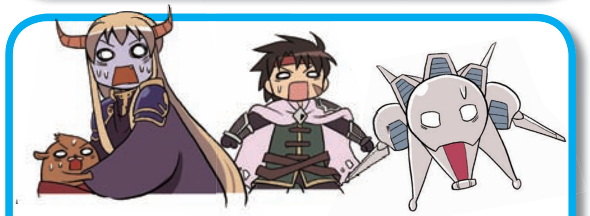
ファルコム ミュージックライブラリー

『めんどくさいラジオ』でも大人気だったこのコーナーは『そららじ』でも継続！　ファルコム作品の魅力溢れるBGMを毎回たっぷりと聴くことができるコーナーだ！



言葉の小箱

『そららじ』の看板コーナーになりそうなこの企画。エステルとヨシュアに自分が考えた掛け合いを喋ってもらえるという、夢のようなコーナーになっているぞ！　投稿をする時は、どちらのセリフか分かるように書くのが採用率アップのポイント！



あ、あんですって～？！ファルコムニュース

ファルコム作品の最新情報をお届けするニュースコーナー。思いがけないニュースを聴くことができるかも？

エステル&ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオ
■配信日　毎月2回（金曜日）更新　ラジオ公式ホームページ、日本ファルコムYoutubeチャンネル、ランティスラジオにて公表配信中
■公式ホームページ　http://www.sora-evo.com/radio/

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

ファルキャラビスコ オールスターBOX

おいしい仲間が大集合!!





写真はイメージです

ファルコム通販の特典アイテムとして大好評のあのオリジナルお菓子、「ファルキャラビスコ」がついに商品化！　歴代の人気ファルコムキャラがプリントされた特製ビスコ、今回は第一弾として『イース』『軌跡』シリーズより20人のキャラが登場だ。また、購入者特典としてみっしぃだらけの「みししシール」もプレゼント。申し込み期間は６月14日まで。メルマガ限定商品なので、登録をお忘れなく！→http://www.falcom.com/mail

英雄伝説 空の軌跡FC Evolution オリジナルサウンドトラック

エステル達と共に音楽で旅しよう!

６月11日発売の日本ファルコム最新作『英雄伝説 空の軌跡FC Evolution』。その劇中曲を完全収録したオリジナルサウンドトラックが同日発売！　Evolution化に合わせて新アレンジ・新録音された楽曲と新主題歌「空の軌跡」がフルバージョンで されているファンには見逃せない仕様となっている。６月11日発売。3,218円（税込）。ダウンロード、ハイレゾ音源版は2,400円（税込）。



ファルコム LINEスタンプ

ファルコムキャラでLINEを楽しく!

LINEで使用できる「クリエイターズスタンプ」、ファルコムキャラのスタンプに新作が続々登場！　『イース』シリーズから最新作『閃の軌跡Ⅱ』まで、LINE会話が楽しくなる様々なスタンプを配信中だ。LINEアプリのスタンプショップから「ファルコム」で検索、また、海外の一部地域では「Ys-English ver.-」も購入可能となっている。詳しくはLINE公式サイトまで。









月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.52

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
デザイン・DTP	さとうだいち／石橋青大
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

今月のプレゼントはこちら!!



① 1名様

❶英雄伝説 零の軌跡
ロイド・バニングスなりきりTシャツ

掘り出し物大放出！　特務支援課のメンバー気分が楽しめるＴシャツはこれからの季節にピッタリだ！（※サイズはＬのみとなります）



② 3名様

❷英雄伝説 空の軌跡
リベール王国スナップショット2

マガジン本誌連載の大人気小説の単行本第２弾がついに６月10日に発売！　保存用にもう１冊いかがですか？

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.52　プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

【記事一覧】

1：東京ザナドゥ 最新情報
2：英雄伝説 空の軌跡 FC Evolution
3：みんな集まれ！ファルコム学園
4：漫画 英雄伝説 閃の軌跡
5：小説 英雄伝説 閃の軌跡
6：エステル＆ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオ
7：ファルコムニュース

アンケート

①ゲーム音楽CDを
何枚持っていますか？

②『みんな集まれ！
ファルコム学園』で
好きなキャラは
誰ですか？

特設サイトからも応募ができます!
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り　6月24日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後３ヶ月を越えて保有することはありません。